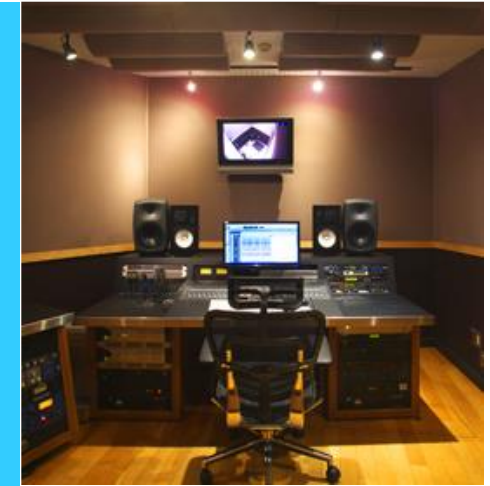




Support The Hospitality

表舞台を輝かせる真のおもてなしを極めて



2020年9月期第2四半期決算説明資料

2020年6月

株式会社CSSホールディングス

東証 JASDAQ

証券コード 2304

<https://www.css-holdings.jp/>

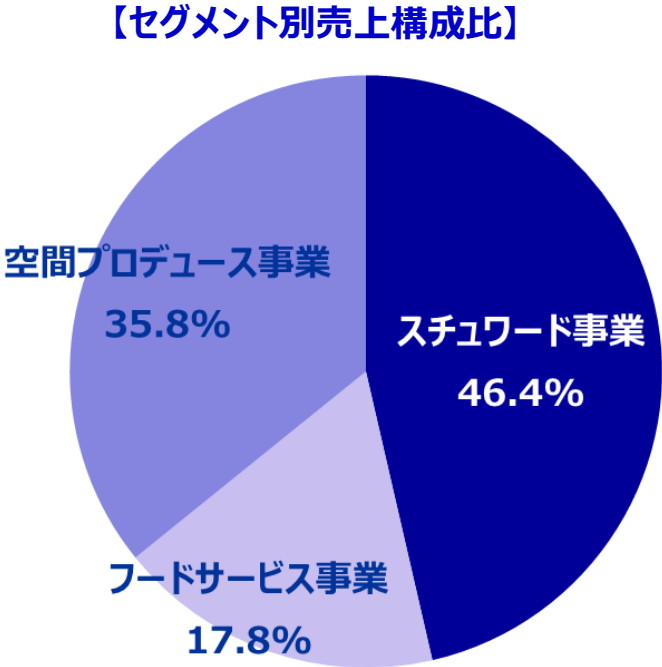
2020年9月期第2四半期決算

【会社名】	株式会社CSSホールディングス
【本社所在地】	東京都中央区日本橋小伝馬町10番 1 号
【設立】	1984年（昭和59年）12月
【資本金】	393百万円
【発行済株式総数】	5,285,600株
【決算期】	9月
【代表者】	代表取締役社長 林田 喜一郎
【連結従業員数】	5,971名（うち、パート・アルバイト 5,459名） （2020年3月31日現在）

連結業績(P/L)

(単位：百万円)	2019年9月期 第2四半期	2020年9月期 第2四半期	差異
売上高	9,880	7,860	-2,019
営業利益	446	268	-178
経常利益	438	297	-141
親会社に帰属する当期純利益	17	181	164
1株あたり当期純利益(円)	3.38	36.01	32.63

(単位：百万円)	2020年9月期第2四半期		差 異
	計画値	当 期	
売上高	8,345	7,860	-485
営業利益	254	268	14
経常利益	257	297	39
親会社に帰属する当期純利益	154	181	27
1株あたり当期純利益(円)	30.64	36.01	5.37



Point

2月までは全セグメントは好調に推移した。
3月はコロナウイルス感染症の影響を受け
売上高は減少し、計画値を若干下回った
利益については、営業利益・経常利益共に
計画値以上となった。
前年との比較における減収・増益は、前期
末のヤマト食品(株)の株式譲渡により連結の
範囲から離脱した影響による。

連結業績(B/S)

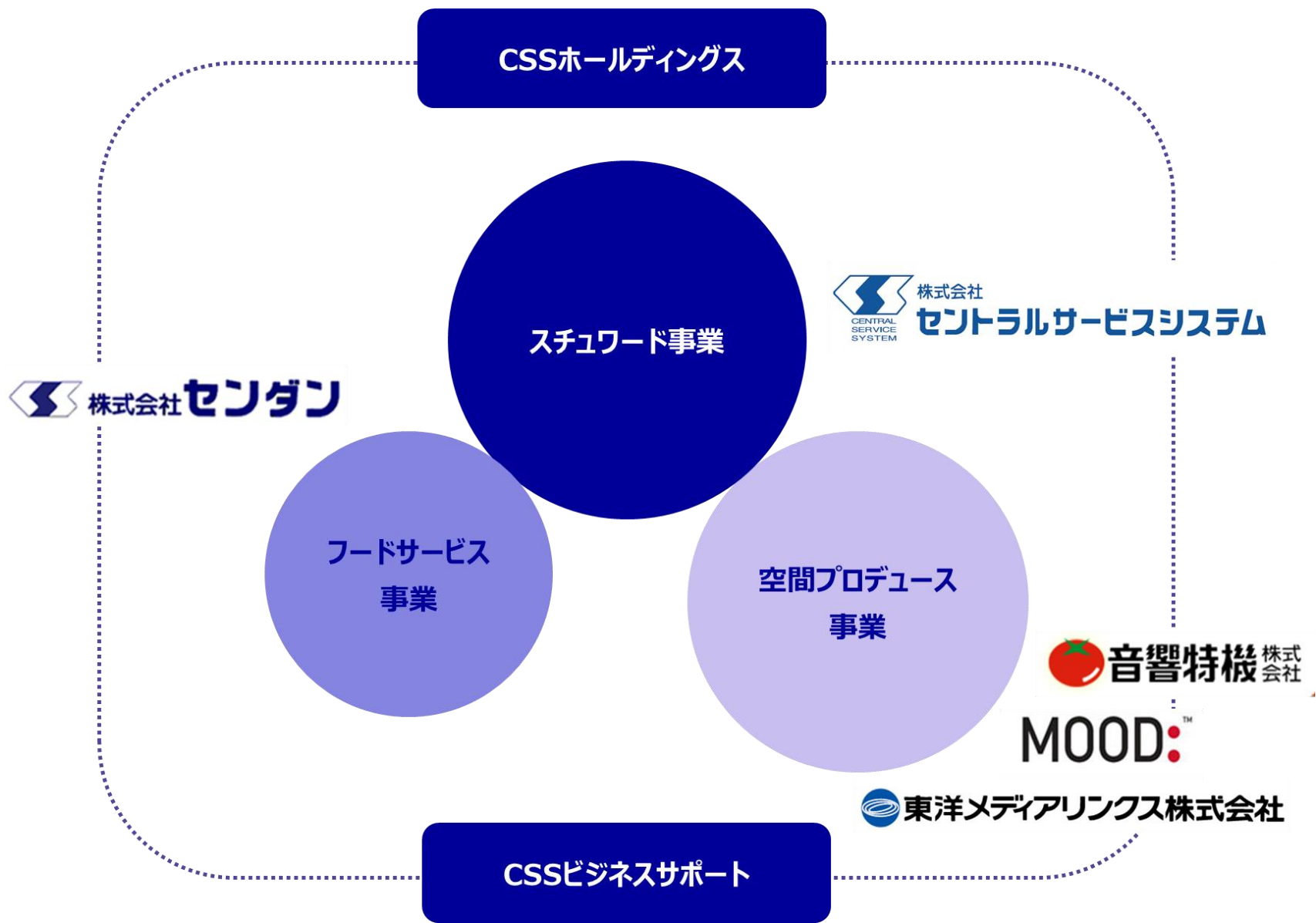
(単位：百万円)	前期末 2019年9月末日現在	当期末 2020年3月末日現在	差 異
資産合計	5,855	5,697	▲ 157
流動資産	3,269	3,187	▲ 81
固定資産	2,585	2,509	▲ 75
負債合計	3,215	2,979	▲ 236
流動負債	2,692	2,495	▲ 196
固定負債	523	483	▲ 39
純資産合計	2,639	2,718	79
株主資本	2,535	2,668	133
評価・換算差額等	103	49	▲ 54
負債・純資産合計	5,855	5,697	▲ 157
自己資本比率	45.1%	47.7%	2.6P

! Point

流動資産については売上高の減少に伴う売掛金等の減少によるもの。
 固定資産については減価償却の進行による。
 負債については長期借入金の返済により固定負債が減少。
 利益剰余金の増加により純資産は増加、自己資本比率は47.7%となった。



(単位：百万円)	2019年9月期 第2四半期累計期間	2020年9月期 第2四半期累計期間	差 異
営業キャッシュフロー	17	315	298
投資キャッシュフロー	▲ 7	▲ 31	▲ 23
財務キャッシュフロー	▲ 106	▲ 227	▲ 120
現金及び現金同等物の増減額	▲ 96	56	153
現金及び現金同等物の期首残高	1,070	807	－
現金及び現金同等物の四半期末残高	973	864	▲ 109

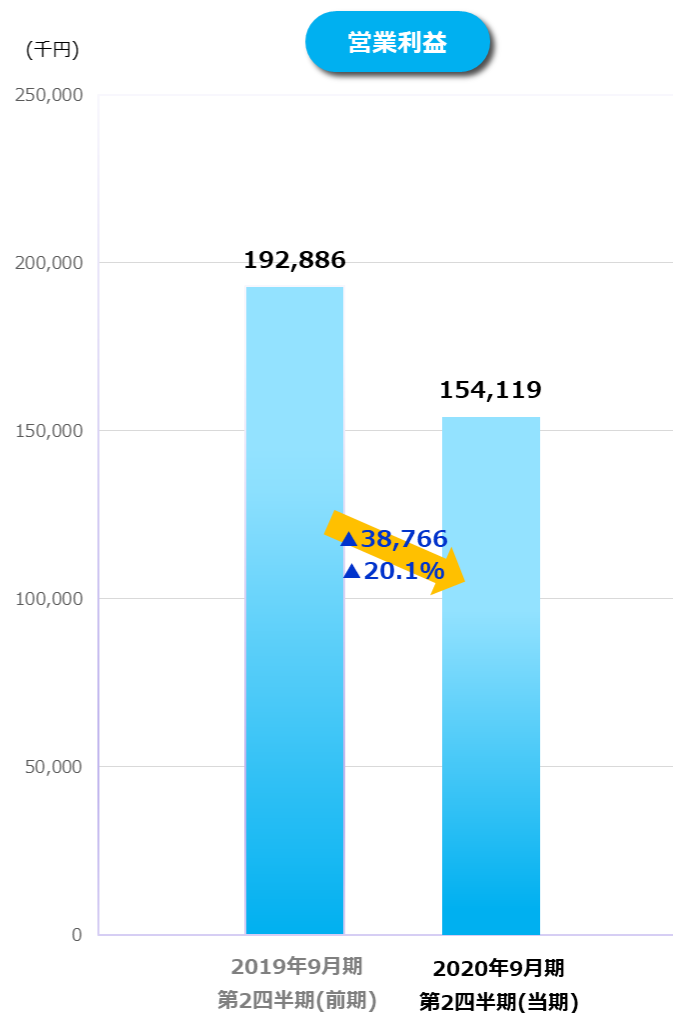
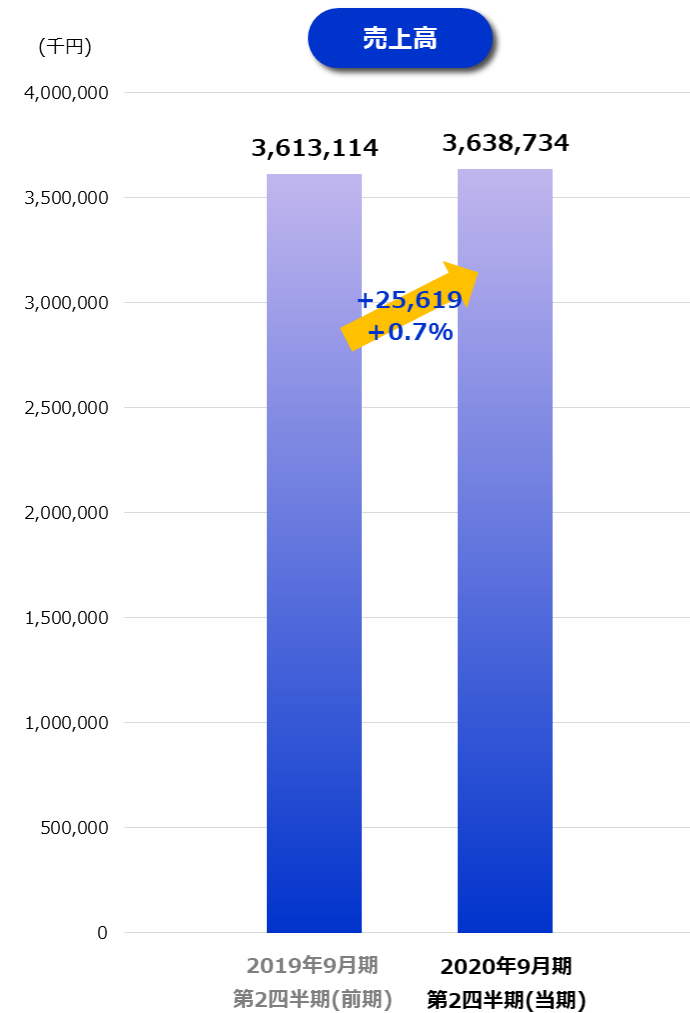


【売上高】

(単位：千円)	2019年9月期 第2四半期	2020年9月期 第2四半期	増減額	増減率
スチュワード事業	3,613,114	3,638,734	25,619	0.7%
フードサービス事業	2,631,957	1,395,449	▲ 1,236,507	▲47.0%
空間プロデュース事業	3,621,826	2,808,326	▲ 813,499	▲22.5%

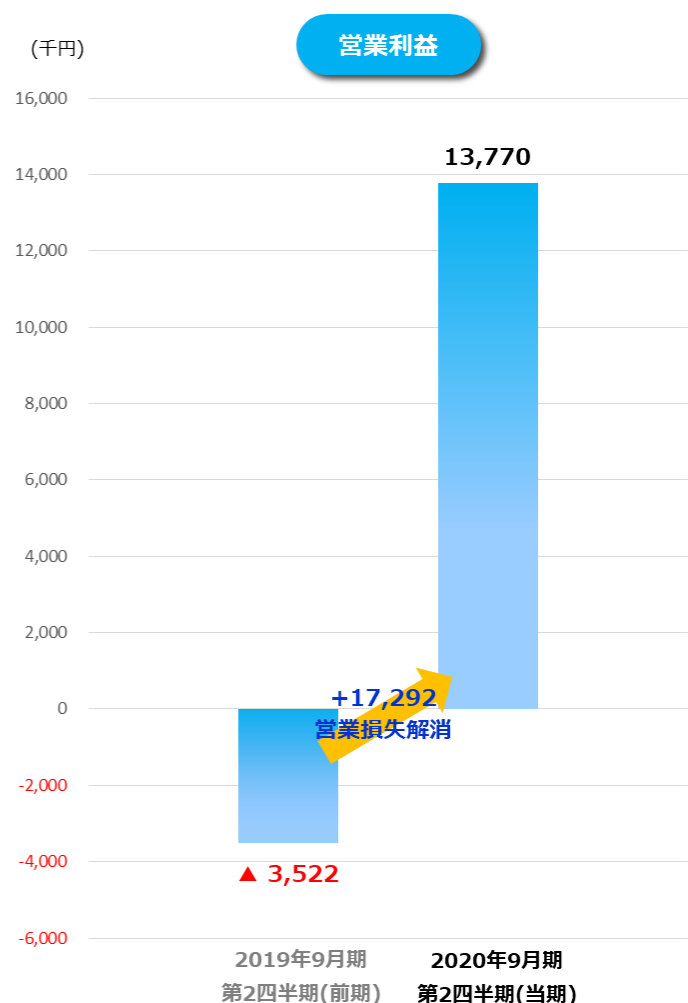
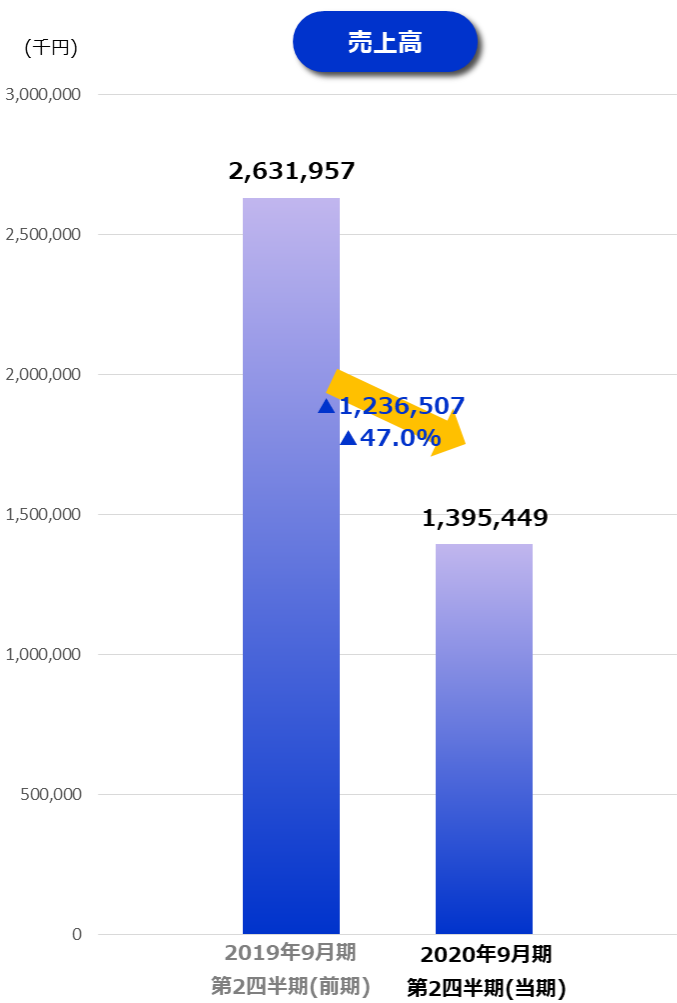
【セグメント利益】

(単位：千円)	2019年9月期 第2四半期	2020年9月期 第2四半期	増減額	増減率
スチュワード事業	192,886	154,119	▲ 38,766	▲20.1%
フードサービス事業	▲ 3,522	13,770	17,292	—
空間プロデュース事業	274,359	102,721	▲ 171,638	▲62.6%



Point
売上高についてはコロナウイルス感染症の影響で3月が落ち込んだものの、概ね前年並みを確保した。費用については人件費の削減に注力するが、圧縮額が追いつかず対前年約20%減となった。

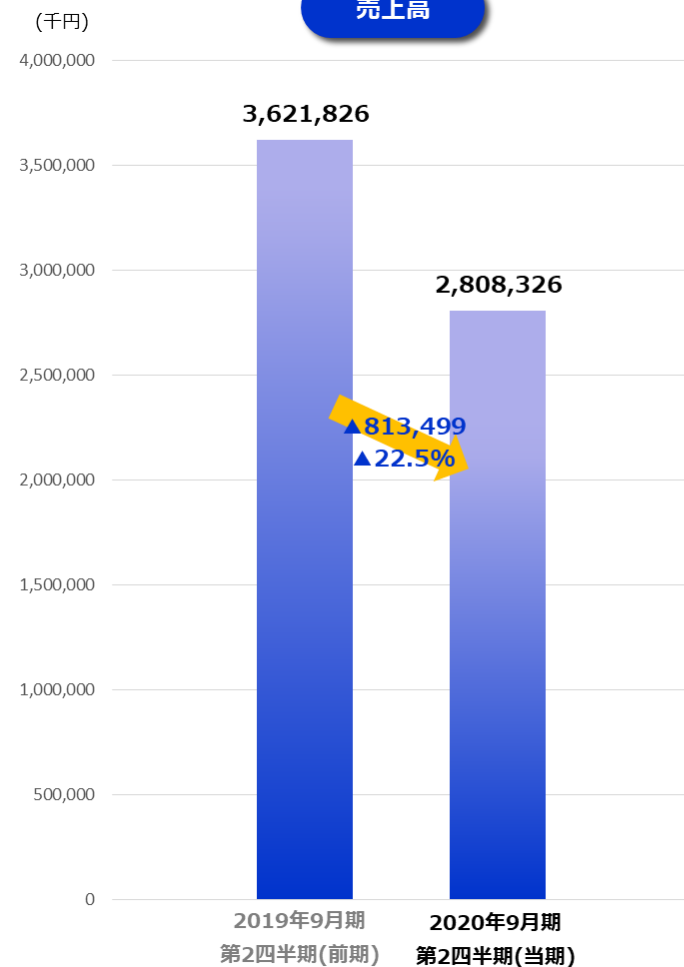




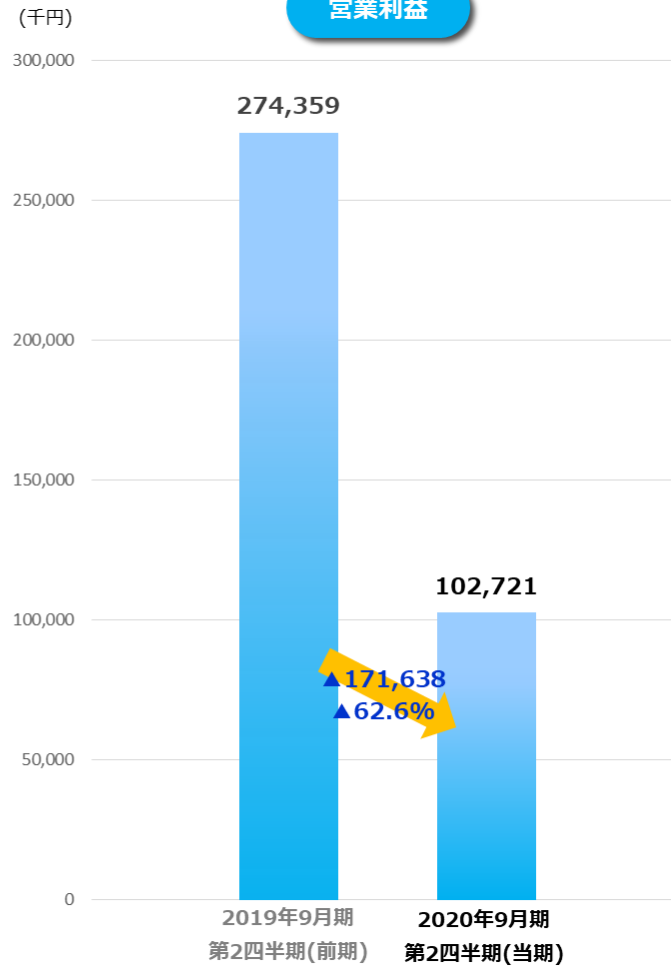
Point

新型コロナウイルス感染症の影響で3月は売上高、利益共に落ち込んだものの、上期を通じては概ね堅調に推移した。前年との比較において売上高の減少、営業利益の増加は、前期末のヤマト食品(株)の株式譲渡により同社が連結から離脱したことによる。

売上高



営業利益



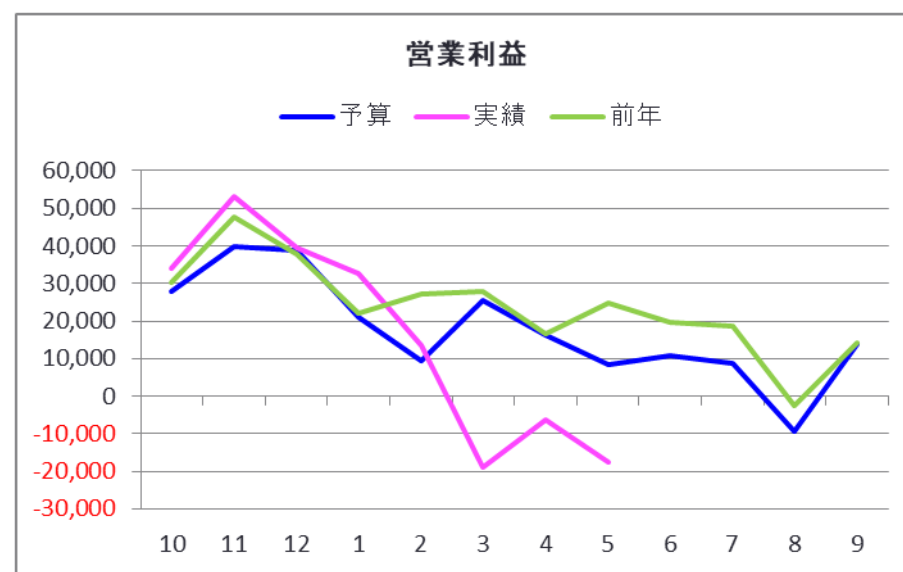
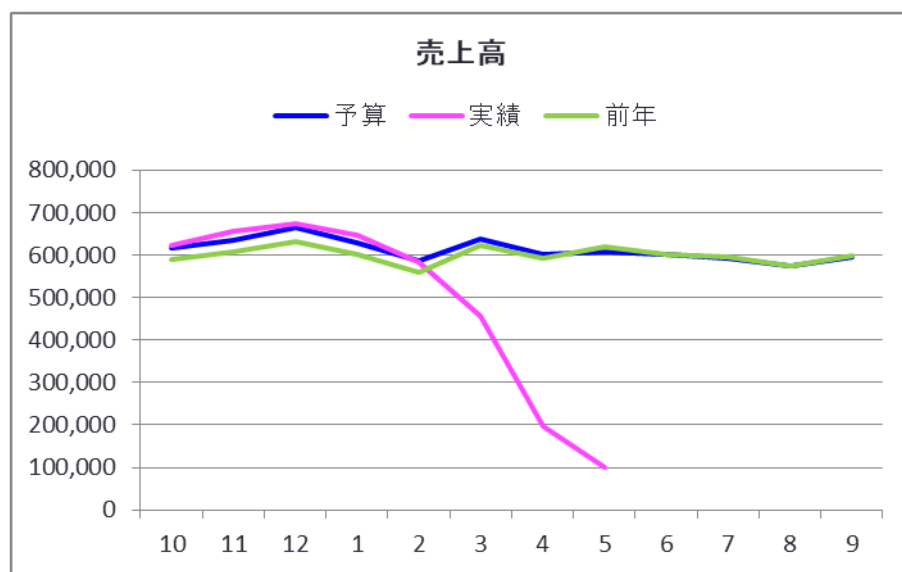
! Point

金融営業部門、法人営業部門において大型件名の受注が不調であり、売上高・利益共に伸び悩んだ。また3月については新型コロナウイルス感染症の影響により輸入製品への影響やイベント中止等による納品数の減少もありセグメント全体でも減収・減益となった。

新型コロナウイルス感染症の影響と当面の取組み ポストコロナへ向けての考え方

2020年3月~5月:売上高約10億円(対前年)減少、約43百万円の営業損失

- 主要顧客のホテルにおいては一般宴会及び婚礼のキャンセル多数、レストラン・バーはほぼ休業の状況
- 食器洗浄・管理業務の稼働は通常の3割程度
- パート・アルバイトを含めて従業員の約9割に休業指示(雇用調整助成金を活用)



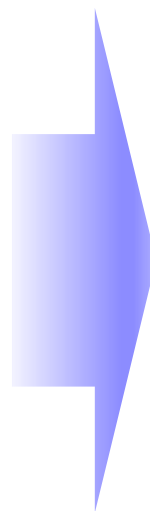
取り巻く環境の変化

- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴うインバウンド需要の減少
- 緊急事態宣言に伴う、移動制限、外出自粛の影響による外食需要の減少



顕在化する影響

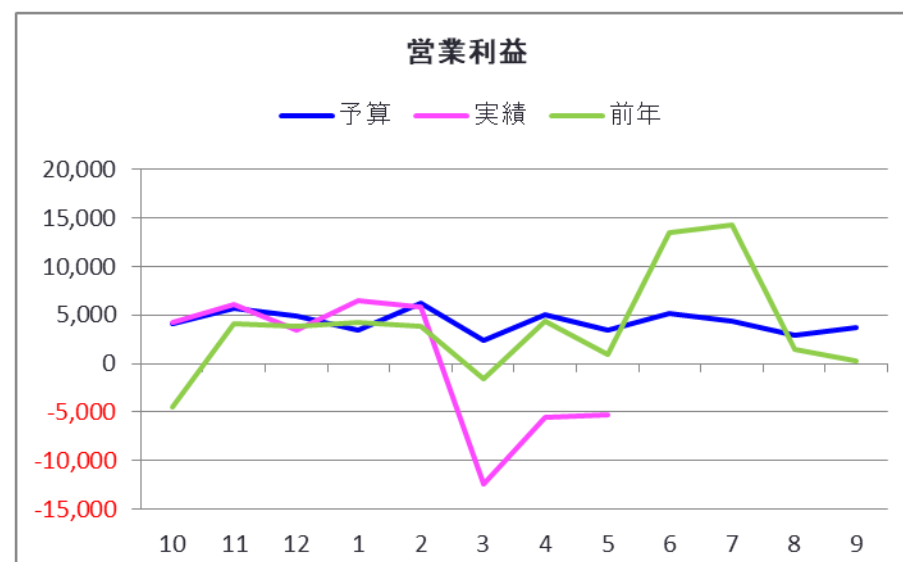
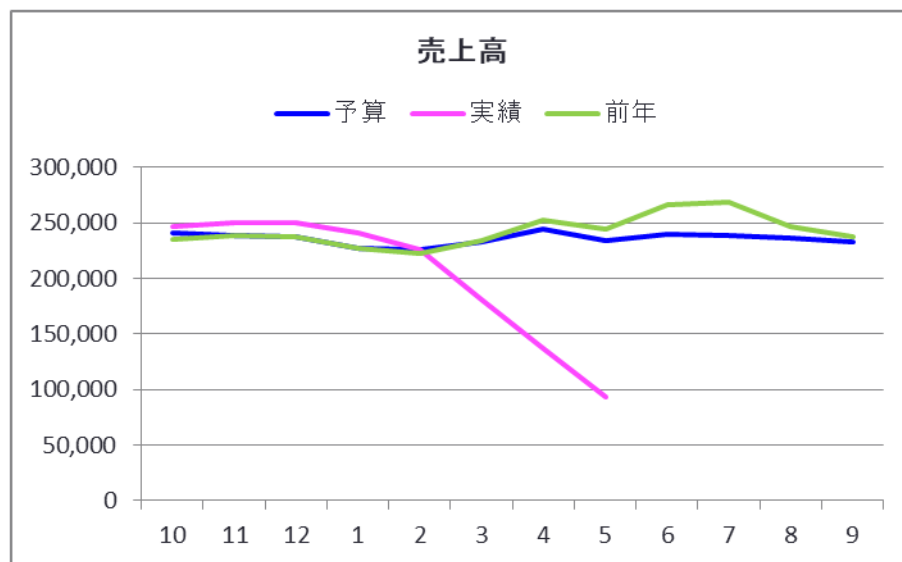
- 顧客先ホテルの業績の悪化
- 宴会・婚礼需要の減少
- レストラン・バーの休業



- 顧客先ホテルとの信頼関係の維持
- 業務再開へ備えてのパート・アルバイト含めた雇用の維持
- 本社経費等固定費の圧縮

2020年3月～5月:売上高約3億円(対前年)減少、約23百万円の営業損失

- 売上高の約80%がホテルの従業員食堂及び朝食レストランの受託
- ホテルの出勤者が減少、従業員食堂の食数も減少または営業休止
- 朝食レストランの休業により受託収入減少



※前年実績にはヤマト食品株式会社は含んでおりません

取り巻く環境の変化

- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴うインバウンド需要の減少
- 緊急事態宣言に伴う、移動制限、外出自粛の影響による外食需要の減少



顕在化する影響

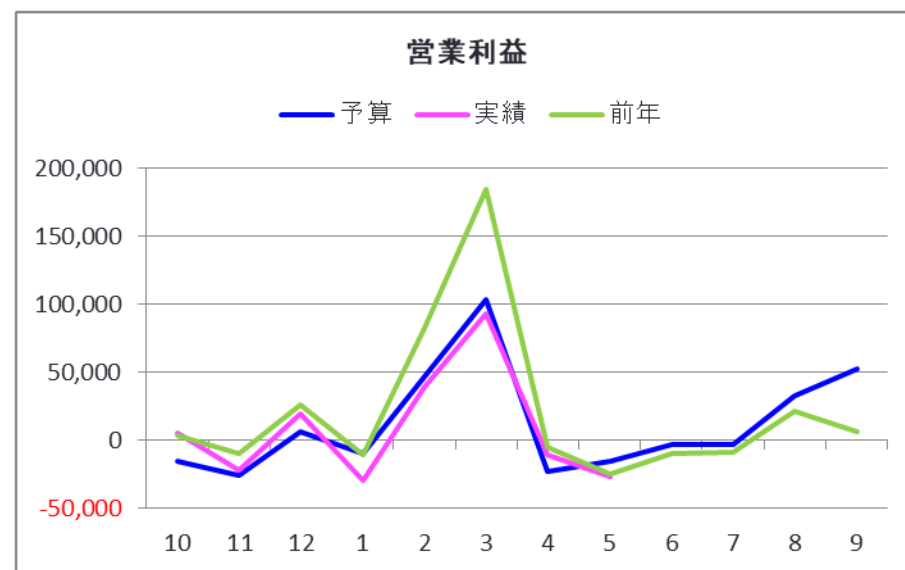
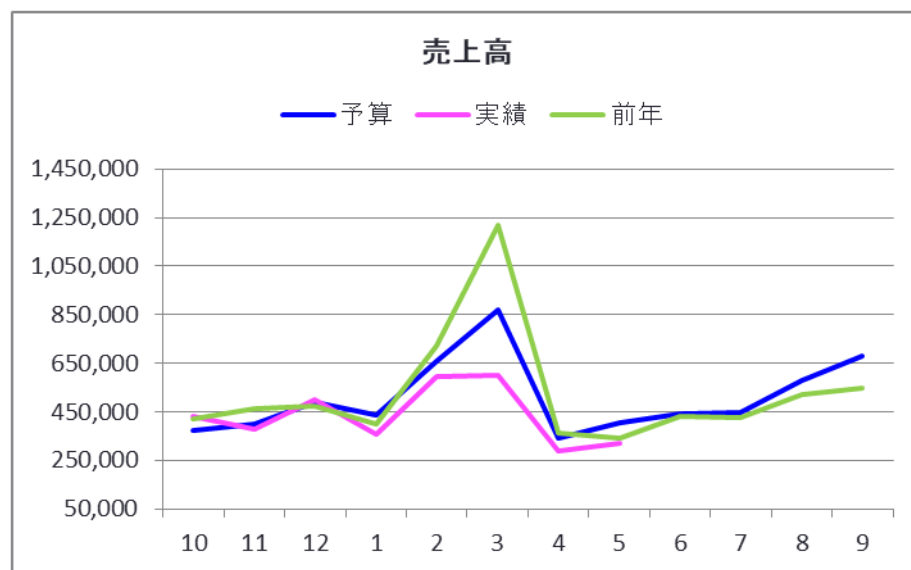
- 顧客先ホテルの宿泊稼働率の低下
- 顧客先ホテルの業務縮小に伴う出勤従業員の減少



- 感染防止、安全対策の一層の充実
- 業務再開へ備えてのパート・アルバイト含めた雇用の維持
- 本社経費等固定費の圧縮

2020年3月~5月:売上高約7億円(対前年)減少、営業利益対前年約▲1億円

- 全国的な景気後退により納期延期の申入れ
- 商品仕入れの遅れの影響による売上が計上できない件名の発生
- コンサートやイベント自粛による受注件名の減少



取り巻く環境の変化

- 新型コロナウイルス感染症に伴う国内外の景気後退
- 緊急事態宣言に伴う、移動制限、外出自粛、「3密」の回避



顕在化する影響

- 商品仕入れの遅れ
- 設備投資の減少
- コンサート、イベント等の自粛



- 今期受注済件名の確実な売上実現
- 来期へ向けての営業活動の活発化
- 固定費の圧縮

今後予想される変化

コロナ後はコロナ以前には戻らない

コロナの影響による経済水準の低下は大きく、コロナ前の水準を回復するのはかなり先となる。経済活動は時間の経過とともにいずれは回復と思われるが、経済や社会の構造は大きな変化を遂げ、人々の行動様式など社会構造は、全く違ったものに変貌を遂げる可能性が高い

密集、密接、密閉を避ける「3密」は、コロナが収束しても人々の記憶に長くとどまり、その行動様式に影響を与える可能性がある

訪日外国人(インバウンド)の復活には時間を要する

世界のいずれかの地域に感染が残る限りは、「人が動けない、動きにくい」状態は国際社会において長期間にわたり残存する可能性がある。

国際間での人的交流が出入国規制、検疫強化のより低調になることは、運輸業、旅行業、宿泊業とその周辺サービス業にはマイナスの影響が長期間残る可能性が高い

ポストコロナ・コロナとの共生へのアプローチ

顧客の多様化

新しい顧客へのアプローチを活発化し、顧客の多様化を図る。特にスチュワード事業、フードサービス事業でのホテルへの依存度を下げる。

商材の拡大・商品開発

社会の変化、顧客の価値観の変化に合わせた空間プロデュース事業での新しい商材の拡大、スチュワード事業、フードサービス事業での「衛生」をキーワードとする商品開発

新しい営業形態

リモートでの営業活動、テレワークと直行直帰の組み合わせにより、会社への出社を少なくする新しい営業活動の展開
取扱い商品の特性に合わせたリモート営業の工夫

構造改革

各社の「強み」「弱み」を改めて把握し、社会や価値観の変化に対応しながら「強み」を活かして「弱み」を克服できる事業構造の改革への着手

管理業務の効率化

現場管理、請求業務、全社システム、承認・捺印システムの検討等管理業務全般を見直すことで本社管理業務の一層の効率化を図る

本資料についてのご注意

本資料は参考資料であり、正確な決算数値等は当社決算短信および有価証券報告書をご参照願います。また、本資料に記載の業績に関する見通しや計画等には、不確定要因を含んでおります。実際の業績などは、当社の事業を取り巻く経済情勢等の様々な要素により異なる可能性があることをご承知おき願います。

IRに関するお問い合わせ

株式会社CSSホールディングス グループ経営管理室

TEL 03-6661-7840

FAX 03-6661-7841

E-mail hld-info@css-ltd.co.jp